

子どもの言葉を育む読み聞かせの調査研究

城 重 幸

Research of the story-telling to bring up the words of the child

Shigeyuki Jyo

豊岡短期大学 論集

第 14 号 別冊

平成 30 年 2 月 28 日 発行

子どもの言葉を育む読み聞かせの調査研究

Research of the story-telling to bring up the words of the child

城 重幸

Shigeyuki Jyo

1 はじめに

脳科学や心理学の発達により、乳児は見たもの・聞いたもの等の未知のことを、母親等の発する音を脳中で統計処理して、言葉として認識していることが分かっている。

ところで、アメリカの発達心理学者のパトリシア・キュール氏は、生後 10 カ月以上の日本人乳児は、同月齢のアメリカ人乳児が聞き分ける「r」と「l」の聞き分けができなかったが、日本人乳児でも月齢が 6～8 カ月だと聞き分けることを突き止めた。

更に、キュール氏は、第 1 グループの乳児に中国人の保育士による中国語での絵本の読み聞かせを 12 回行い、第 2 グループには、同じ保育士のテレビ録画による同絵本の読み聞かせを同回数行った。結果、実際に読み聞かせた乳児は中国語の語音の聞き分けができたのが 65%であったが、テレビで行った乳児は 55%に留まった。このことから、乳児は、脳の中で保育士の読み聞かせの「生の」声を、統計学的な処理をして、乳児の脳に語音として定着させていることを明らかにした。(Early Language Learning and Literacy)

最近、育児書等に乳幼児の「言葉」の獲得には、読み聞かせが有効であると記述されているが、その根拠が明確には示されていない。そこで、乳幼児への読み聞かせの有効性について明らかにする必要があると痛感した次第である。本稿では、小学生に「読み聞かせ」のアンケートを実施し、読み聞かせの効用を明らかにすることにした。

2 研究仮説

仮説 1 乳幼児への保護者や保育所・幼稚園の先生等による本の読み聞かせは、小学校就学後の学業成績に好影響を及ぼすものとなる。

仮説 2 乳幼児への読み聞かせは、単純なストーリーのものを何度も繰り返して読み聞かせる方が言語獲得に有効に働く。

3 調査研究の方法

熊本市内の小学校に平成 29 年 2 月から 3 月にかけて、以下のアンケートを実施し、集計・分析・考察した。

読書や読み聞かせについてのアンケート

この口には書きません

() 小学校()年()組 (男 女) 出席番号()

このアンケートはテストではありません。あなた自身の経験をよく振り返って正直に答えてください。自分の記憶がはっきりしないところは、お父さんやお母さんが「あなたには『○○』の本を『○』歳ころよく読んで聞かせたよ。」なども手がかりにしてください。

1 小学校就学前の本とのかかわり

(1) 絵本や昔話などの本の読み聞かせについて

① 赤ちゃん(0歳から1歳)のころから良くおうちの人に絵本や昔話などの読み聞かせをしてもらっていた。(はい いいえ)

② 「はい」と答えた人はわかる範囲で本の題名をあげてください。何冊でも結構です。
()

③ ①で「はい」と答えた人は、誰から読み聞かせをしてもらっていましたか。次の()の中の人に○をつけてください。何人でもいいです。(お父さん お母さん おじいさん おばあさん 兄や姉 保育園の先生 幼稚園の先生 それ以外の人)

④ 幼児(2歳から6歳の保育園・幼稚園)のころからよく絵本や昔話などの読み聞かせをしてもらっていた。(はい いいえ)

⑤ 「はい」と答えた人は分かる範囲で本の題名をあげてください。何冊でも結構です。
()

⑥ ④で「はい」と答えた人は、誰から読み聞かせをしてもらっていましたか。次の()の中の人に○をつけてください。何人でもいいです。(お父さん お母さん おじいさん おばあさん 兄や姉 保育園の先生 幼稚園の先生 それ以外の人)

(2) 自分一人で読んだ絵本や昔話などについて

① 保育園や幼稚園のころ、一人で本を(読んだ 読まなかった)。

② 読んだと答えた人は、最初に一人で読んだ本は()歳ころで、本の題名は()だった。

(3) 小学校に入ってから現在までの読書について

① 読書は(好き 嫌い)です。

② 教室での座っての勉強は、(好き 嫌い)です。

※右上の口には、担任に A. B. C の学業成績と学習態度等の気付きを記入してもらった。

4 結果と考察

(1) アンケート総数

アンケートは、熊本市内の6小学校の13学級から、計386人の有効回答を得た。

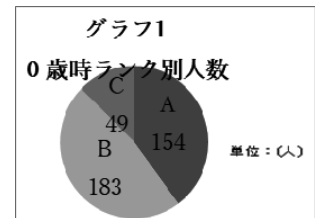
(2) 0歳時の読み聞かせの有無と学業成績の関係

0歳時の保護者等による読み聞かせの有無を児童に問い、その上で担任には、児童一人ひとりの学業成績をA(優れている).B(普通).C(遅れている)の3段階(ランク)に分けてもらった。下の表1がその結果である。

表1によるとまず、0歳時に読み聞かせ有りの児童は、386人中212人で、半数よりやや多い54.9%であった。

0歳時読み聞かせの成績ランク別人数(全体) 表1

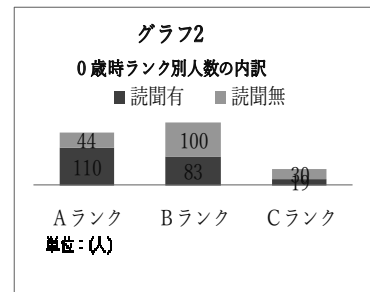
項目	ランク	A	B	C	計
ランク別人数		154	183	49	386
0歳時の読み聞かせ有		110	83	19	212
0歳ランク中の割合 (%)		71.4	45.3	38.7	54.9
0歳時の読み聞かせ無		44	100	30	174
0歳読み聞かせ無割合		28.6	56.7	61.3	45.1



ランク別学業成績を見てみると、グラフ1のように、Aランクの人数は、154人(39.9%)、Bランクは183人(47.4%)、Cランクは49人(12.7%)であった。

このランク別の人数は、現在小学校で行われている評価規準を元にした通知表の評定に使われている割合にほぼ合致するもので、この調査が信頼に値するといえる。

そこで、学業成績A、B、Cのランク中の0歳時点での読み聞かせの有無について見てみると、グラフ2が示すように、Aランクは、154人中110人の71.4%(全体386人中の割合29.9%)の割合であった。一方Bランクは、183人中83人の45.3%(全体の割合21.5%)で、Aランクより26.1ポイントも下がり、Cランクは、49人中19人の38.7%(全体の割合4.9%)で、AランクとCランクには32.7ポイントの有意差があった。



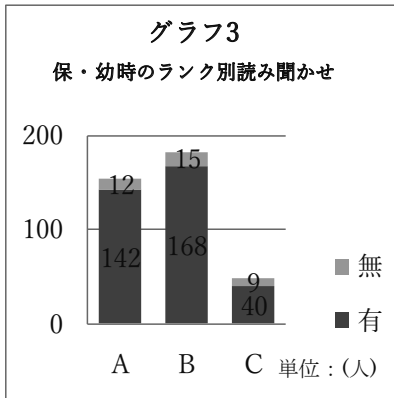
この結果から、0歳時点での読み聞かせは、他の遺伝的資質や生育環境等も影響していることは否めないが、成績に一つの要素として反映していることが分かった。

ちなみに、調査対象のN小1組とK小1組、F小3組、それにH小2組のCランクの児童は、全員誰からの読み聞かせが無かったと答えている。

(3) 1歳から入学前まで(主に保育園・幼稚園時)の読み聞かせ

次に、前ページの表1と下の表2とを比較すると、0歳時では、212人の読み聞かせだったが、1歳から入学前までの読み聞かせは、350人と0歳時より138人増加している。

下の表2とグラフ3について、保育所・幼稚園時の読み聞かせも、Aが154人中142人の92.2%、Bが183人中168人の91.8%、Cが49人中40人の90.7%と、どのランクも90%程度で、ランク別の有意差は見られなかった。



保・幼時の読み聞かせの成績ランク別人数 表2

項目 \ ランク	A	B	C	計
ランク別人数 (人)	154	183	49	386
保・幼での読み聞かせ有	142	168	40	350
保幼時ランク中の%	92.2	91.8	81.6	90.7
保幼読み聞かせ無 (人)	12	15	9	36
保幼時のランク中無の%	7.8	8.2	11.0	9.3

そこで、0歳から就学前までの継続的読み聞かせについて表3にまとめてみた。表3によると、Aランクの154人中、0歳時に読み聞かせをしてもらっていた110人(表1)の中で、継続して保育所・幼稚園時でも読み聞かせをしてもらっている児童は、99人の90.0%であった。つまり、Aランクの多くの児童は、生まれてから就学前まで親や保育所・幼稚園で継続して読み聞かせをしてもらっていたのである。一方、Cランクの49人の児童のうち、読み聞かせがあった児童は17人で、極めて少人数であった。

0歳時から保育所・幼稚園まで継続 表3

	総人数	0歳時から保育所・幼稚園まで継続	保幼だけ	0だけ
A ランク	154	99	43	3
C ランク	49	17	23	3

このことから、0歳から6歳の就学までの継続しての読み聞かせがより有効であることが分かった。乳幼児は、読み聞かせをしてもらったことで、言葉の理解と獲得とが進み、語彙基盤がしっかりと形成されたこと、そのことにより言葉を駆使して思考する能力も身に付いたことで小学校入学後の学業成績の向上につながったと考えられる。つまり、「クシュラの奇跡」(ドロシーバトラー作)で報告されたように読み聞かせにより、児童の脳に言語的刺激が加えられ、シナプスが繋がり脳が活性化したのである。

(4) 0歳の時、読み聞かせをしていた本の題名

212人(表1)の0歳時に読み聞かせをしてもらった本の内訳は、上位の方から『いないいないばあ』24人、『ももたろう』17人、『はらぺこあおむし』13人、『あんぱんまん』11人、『日本昔話』

7人、『ぐりとぐら』5人、『うらしまたろう』と『だるまさんがころんだ』4人、『いっすんぼうし』と『おむすびころりん』3人、以下2人は『あかずきん』『うんちっち』など10冊、1人が挙げた本は『7ひきのこやぎ』など60冊であった。

上位の本の内容を見てみると、第一位の『いないいないばあ』は、赤ちゃんが大好きないないないないばあをそのまま絵本にしてあり、しかもテンポがよく、その上、兎や犬・猫等の動物が登場し、乳児の興味関心をひくものでもある。これを読み聞かせをすると、乳児は絵本の登場人物と一体化し、さらには、乳児は何度も読み聞かせをアンコールする。

2位の『ももたろう』に使われている語彙を分析すると、「おじいさん、おばあさん、こ、なかま、いえ、やま、かわ、て、こし、め、おしり、くちばし、だんご、ごちそう、いぬ、きじ、さる、おに、たからもの、かたな」等の生活に必要な基本的な名詞と、「いく、くる、ながれる、くらす、あやまる、つける、かみつく、いれる、ならべる、くださる、くれる、たすける」等の生活に必要な動詞とが数多く、しかも何度も繰り返し使われているのである。

第3位の「はらぺこあおむし」にも、「にちようび、げつようび、かようび、どようび、あさ、ひる、とき、むし、はっぱ、ちょうちょ、なし(梨)、おなか、たまご、あおむし、さなぎ、へんしん、フルーツ、キャンディー、りんご、カップケーキ、アイスクリーム」等の名詞や、動詞も、「うまれる、たべる、こわれる、なおる、へる、ひらく、する」等が使われている。しかも、繰り返し使われている。他の読み聞かせに使用された本もほぼ同様の傾向を示している。

これらのことから、読み聞かせに用いられている本は、基本的な生活語彙を使用していて、かつまた、基本用語を何度も繰り返し使っている絵本が多いことが分かった。

ここで、0歳時にどのように読み聞かせをしていたのかを、直接Aランクの児童数人の母親に確認したところ、次の答えが返ってきた。

A児 『ももたろう』の絵本を何度も何度も繰り返し読み聞かせていた。そのころは0歳でまだ言葉は発することはできなかったが、ある時、話の筋や登場人物に対して、同じ個所で笑顔になったり、手足を動かしたりするようになったので、言葉を言葉として認識できるようになっていると思った。

B児 同じ物語絵本を毎日繰り返し読んでやっていた。他の同年齢の子どもさんより、発語が早かったと記憶している。3歳から4歳ころになり、他の絵本を読み聞かせをしていると、同じような表現の文に対して「○○と同じね。」と反応するようになった。

C児 赤ちゃんの時、毎日毎日、乗り物図鑑や乗り物の絵本を繰り返し読み聞かせをしていたので、発話ができるようになった時、乗り物のことを理解した話が多かった。

D児 赤ちゃんの時、何度も『はらぺこあおむし』の絵本の読み聞かせをしていたら、3歳のころ妹に「読んであげる」と前置きしてあたかも自分で絵本を読んでいるかのように語り聞かせていたの

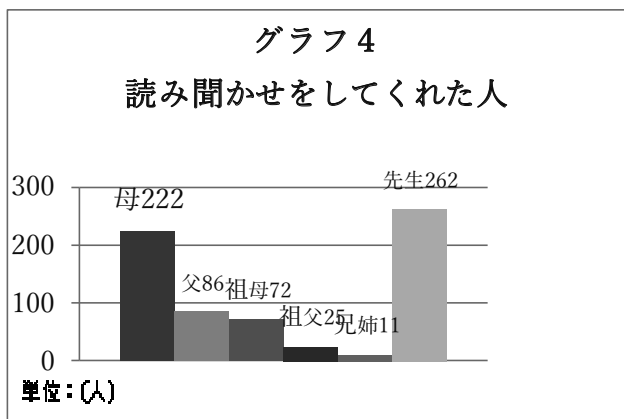
で驚いた。

E 児 繰り返し読み聞かせをしたことにより、いつの間にか、挿絵を見ただけで、話の筋をイメージでき、ほぼ文章の通り話せるようになっていた。

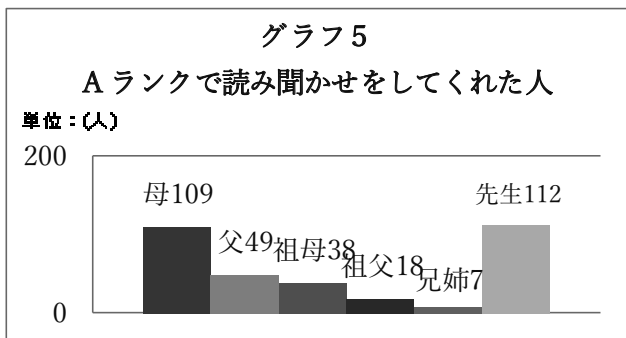
この聞き取りから、同じ本の繰り返しの読み聞かせが有効であるし、一つの物語では『はらぺこあおむし』や『おおきなかぶ』等のように繰り返しの表現がある絵本が、乳幼児の言葉理解や言葉獲得を促していることが分かった。「何度も繰り返す」ということで、脳の中で言葉の統計処理が可能になっているのである。

(5) 読み聞かせをしてくれた人

読み聞かせをしてくれた人は、グラフ4の通り、母親が222人(63.4%)と多かった。この結果は、乳幼児の言語獲得には、母親の役割が極めて大切であることを示している。同時に、保育所・幼稚園の先生の読み聞かせも、262人(74.9%)と良くなされている。



更に、グラフ5のように、Aランク中で、読み聞かせをしてもらった145人の児童で見ると、母親



が109人(75.1%)、先生112人(77.2%)で、母親や先生の読み聞かせの割合が更に高くなっている。

0歳から6歳の就学までの読み聞かせが、言語獲得や思考力それに情緒の安定をも促進し、小学入学後の学業成績の基盤となっているのである。

(6) 1歳から入学前まで(保育園・幼稚園)の読み聞かせの本名

『ももたろう』23人、『ぐりとぐら』15、『さるかにかっせん』12、『エルマーの冒険』10、『はらぺこあおむし』9、『もったいないばあさん』7、『シンデレラ』・『さんびきのこぶた』・『アンパンマン』5、『てぶくろ』・『かちかち山』・『おおきなかぶ』4、3人が『白雪姫』や『おむすびころりん』など11で、2人と1人が上げた本名が『ムーミン』や『さんびきのこぶた』や『したきりすずめ』などの絵本で、123冊であった。

保育所・幼稚園時では『ももたろう』が第1位で、2位が『ぐりとぐら』、『さるかにかっせん』が3位であった。傾向としては0歳時とほとんど変わらないが、本の範囲が広がり、冊数が増えている。園で読み聞かせに使われている本は、ストーリーが簡潔で、しかも乳幼児の興味関心をひき、主題が明確なものであることがわかった。

(7) 一人で本を読み始めた年齢

一人で本を読み始めた年齢別人数 表4

項目 \ 年齢	1	2	3	4	5	6	計	平均
人数	6	17	40	76	68	19	226	
0歳読み聞かせ	5	14	27	43	41	10	140	
Aランク	4	9	20	40	19	7	99	
Bランク	2	7	17	31	29	9	95	
Cランク	0	1	3	5	10	3	22	
延べ人数	6	34	120	304	340	114	918	4.06
延年齢0歳読み聞かせ	5	28	81	172	205	60	551	2.44
Aランク延年齢	4	18	60	160	95	42	379	3.82
Bランク延年齢	2	14	51	124	145	54	390	4.10
Cランク延年齢	0	2	9	20	50	18	99	4.50

0歳から6歳までの入学前に、一人で本を読み始めた年齢は、表4のように386人中226人の58.5%であった。入学前に半数超の児童が読めるようになっている。

また、0歳から6歳までの間に一人読みができるようになった年齢の平均は、4.06歳である。この中の0歳時に読み聞かせをしてもらった幼児に限ると、2.44歳と格段に一人読みの時期が早くなっていることが判明した。ここにも0歳時の読み聞かせの効果が表れている。

ランク別に見ると、Aランクの平均は3.82歳、Bランクは4.10歳、Cランクは4.50歳となり、一人読みを早く始めた児童が、学業成績が良いという傾向が表れた。

(8) 読書と教室での学習の好き嫌い

次ページの表5から、0歳で読み聞かせをしてもらわなかった174人のうち、74人の42.5%が読書は嫌いだと答え、0歳の時、読み聞かせをしてもらった212人のうち、54人の25.4%が読書は嫌いだと答え、17.5ポイントの有意差があった。即ち、0歳の時、読み聞かせをしてもらわなかった児童は、読書嫌いになる傾向が強く、読み聞かせをしてもらった児童は小学校時点で読書好きになる傾向が明らかになったのである。

このことは、読み聞かせが乳幼児の言語獲得を助長し、言葉に対する抵抗感をなくしたことに他ならない。その結果、児童は読書好きになったのである。

読書と教室での学習の好き嫌い 表5

有無 \ 嫌い	全体	読書嫌い	教室での学習嫌い
0歳時の読み聞かせ無	174人	74人(42.5%)	110人(63.2%)
0歳時の読み聞かせ有	212人	54人(25.4%)	93人(43.9%)

また、0歳の時、読み聞かせをしてもらわなかった174人のうち、110人の63.2%が、教室での学習は嫌いと答え、0歳の時、読み聞かせをもらった212人のうち、93人の43.9%が教室での学習は嫌いと答え、19.3ポイントの有意差があった。

同時に、教室での学習ぶりを担任にコメントしてもらったところ、0歳時に読み聞かせがなかった児童は、授業態度に落ち着きがない、考えることが苦手、集中力がない等のコメントが添えられていた。読み聞かせは、子どもを情緒的に安定させ、思考力・集中力も育み、結果としてそのことが学力に影響したのである。要するに、小学校での学習にまで読み聞かせが反映しているということである。

5 研究成果と今後の課題

今回の読み聞かせについてのアンケートで以下のことが明らかになった。

(1) 乳幼児への読み聞かせは、子どもの言語獲得を促すばかりでなく、精神的安心感や想像力・思考力も育み、就学後の学業成績をも向上させるものである。

(2) 乳幼児への読み聞かせに適した本は、次のようなものである。

①シンプルな展開のストーリーの絵本 ②乳幼児が興味関心を示す動物等が登場するもの ③乳幼児が何度もリクエストする内容のもの ④一つの本の中でも繰り返しの表現が何度もあるもの ⑤人間にとって必要な基本的な生活語彙を含んでいるもの

(3) 本の読み聞かせを各家庭や保育所保育、それに幼稚園(認定こども園も含む)教育にも位置付けることを奨励したい。

(4) 東大生の家庭では乳児期に、毎日読み聞かせをしていた家庭が約7割だったという報告があるので、一歩進めて、読み聞かせと知能との関係を明らかにしたい。

参考文献

- 1 Early Language Learning and Literacy: Neuroscience Implications for Education 【Patricia K. Kuhl, Volume 5, Number 3, pages 128-142, September 2011】
- 2 子どもと言葉【萌文書林 岡田明監修 2014年4月1日】
- 3 クシュラの奇跡【のら書店 ドロシーバトラー作、百々佑利子訳 2006年3月20日】